

○恵庭市の電話救急相談体制

H26.5.16現在
保健課庶務S

※「救急安心センターさっぽろ」は平成25年10月開設、平成26年度から札幌市・石狩市・新篠津村の3自治体の参画。

相談窓口	① 夜間・休日急病診療所による 電話対応	② 夜間・休日診療電話案内	③ 北海道小児救急電話相談	④ 北海道救急医療 情報案内センター	(市消防への救急通報)	(保健センターへの相談)	参加検討中 救急安心センター さっぽろ
運営主体	恵庭市	恵庭市	北海道	北海道 (北海道健康づくり財団に委託)	恵庭市	恵庭市	札幌市
番号	37-4085	33-5000	011-232-1599 (プッシュ回線及び携帯電話からは #8000でも繋がる)	0120-20-8699 (携帯電話からは011-221-8699)	119	37-4121	#7119
時間	(平日)毎日20時～翌7時 (土曜)14時～翌7時 (日・祝)9時～翌7時 ※年末年始除く	毎日24時間	毎日19時～23時	毎日24時間	毎日24時間	(平日)毎日8時45分～ 17時15分 ※土・日・祝日・年末年始除く	毎日24時間
位置づけ	救急相談窓口ではないが、 一次救急医療機関という性 格上、応急手当や受診が必 要かどうかという相談の電話 を多く受け付けている。医師・ スタッフの判断で他の窓口等 を紹介することもある。	医療機関案内 機械音声により、当日の一次 救急医療機関と電話番号を 案内する。	小児の救急相談 夜間における子どもの急な 病気やけがなどの際に相談 を受け付け、専任の看護師 や医師が症状に応じた適切 な助言をする。 ※個別の医療機関を案内す るものではない。	医療機関案内 所在地、年齢、症状等に応じ た適当な最寄り医療機関を オペレーターが案内する。 ホームページによる検索ス テムも提供。 ※医療相談を受け付けるも のではない。	救急相談窓口ではないが、 救急通報件数の中には右記 ①～⑤で対応可能な比較的 軽症患者に関するものも一 定程度含まれると考えられ る。	救急相談窓口ではないが、 一般的な健康相談を受け付 けており、中には急な病気 やけが等の応急手当や受診の 必要性についての相談もあ る。	札幌圏の参加自治体住民か ら、急な病気やけがなどの際 に相談を受け付け、専任の 看護師や医師が症状や緊急 性を判断し、助言、医療機関 案内、救急車要請のための 案件転送等を行う。
市内相談件数	2,909件(H24年度) 3,143件(H25年度)	2,252件(H24暦年) 2,105件(H25暦年)	【道央三次医療圏(札幌除く)の 合計件数】 1,241件(平成24年度) 1,140件(平成25年度) ※道央三次医療圏:石狩、空 知、後志、胆振、日高地方。こ れ以上細かな単位では集計を していない。 (参考:H25年度の札幌市4,240 件)	790件(H24年度) 671件(H25年度)	1,970件(H24暦年) 1,925件(H25暦年)	1,441件(H24年度) 1,115件(H25年度)	【札幌圏全体の場合】 52,747～68,044件 ※札幌圏:札幌、石狩、江別、 当別、新篠津、千歳、北広島、 恵庭
一日あたり件数 (1/365)	7.97件(H24年度) 8.61件(H25年度)	6.17件(H24暦年) 5.77件(H25暦年)	3.4件 3.1件	2.16件(H24年度) 1.84件(H25年度)	5.40件(H24暦年) 5.27件(H25暦年)	5.9件(H24年度) 4.6件(H25年度) 平日:244日	【札幌圏全体の場合】 144.51～186.42件
平成25年度 市負担費用	全体運営費のなかで対応 (人件費、通信料等)	電話回線料のみ 30,690円(定額)	なし	なし	全体運営費のなかで対応 (人件費、通信料等)	全体運営費のなかで対応 (人件費、通信料等)	【当市が参加する場合の最低 負担割合】 5,300,000円
相談1件あたり 費用		14.6円(H25)	なし	なし			
データ根拠	市保健課 診療所集計資料	消防に確認 (市消防統計の災害通報受 理状況に掲載される)	北海道保健福祉部医療政策 局医療薬務課 医療政策グ ループに確認	北海道救急医療・広域災害 情報システム年報	消防に確認 (市消防統計の災害通報受 理状況に掲載される)	※救急的性格の相談につ いては集計をしていない。	札幌市からの資料

見込み

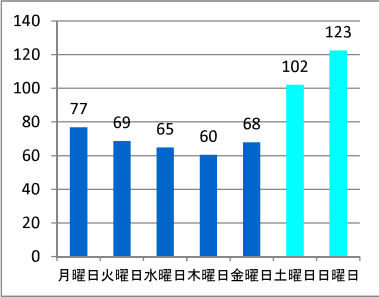
救急安心センターさっぽろ・相談状況の概要（H25.10.1～H26.3.31）

1 相談の概況

(1) 相談件数

集計期間	2013/10/01 ～ 2014/3/31
受付件数	14,647 件

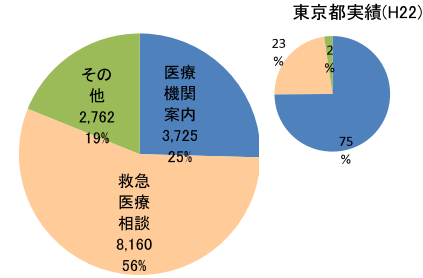
(2) 曜日別受付件数(日平均)



▼医療機関が休診となる土日に相談件数が増加している。

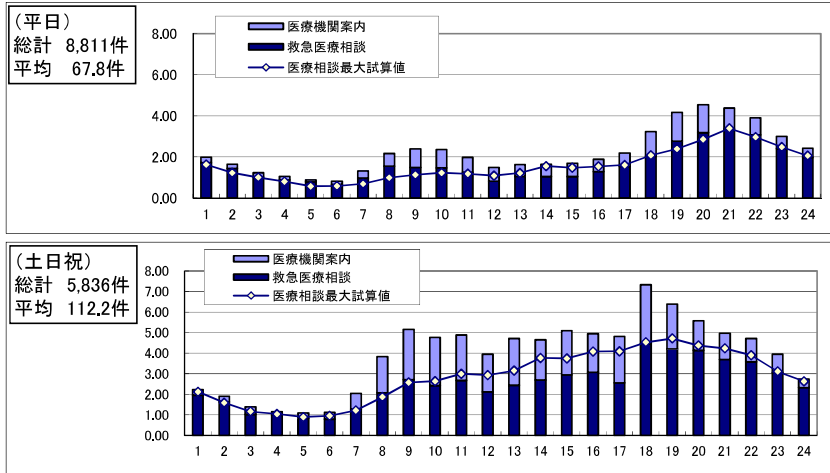
	医療機関案内	救急医療相談	その他	計
10月	326	1,299	388	2,013
11月	359	1,110	413	1,882
12月	785	1,490	629	2,904
1月	979	1,538	515	3,032
2月	716	1,379	418	2,513
3月	560	1,344	399	2,303
合計	3,725	8,160	2,762	14,647

(3) 相談種別内訳(累計)



▼医療相談はほぼ試算値どおりの件数であるが、医療機関案内は試算の1割程度しかなく、医療機関案内が全体の25%、救急医療相談が全体の56%となっている。

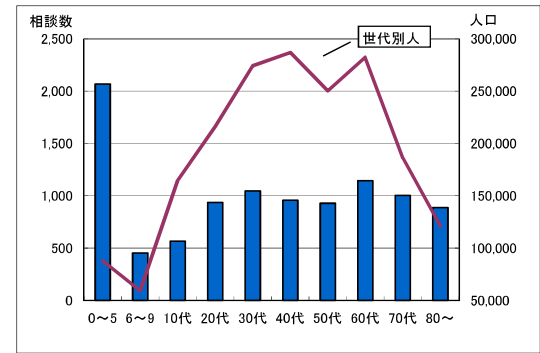
(4) 時間帯別相談件数(日平均)



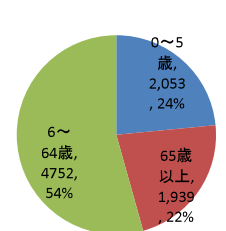
▼7時～8時と18時～22時にピーク

▼救急医療相談については、ほとんどの時間帯で最大試算値に近い相談状況であるが、想定と比し7～8時台について大きく上回っており、起床後から医療機関の診療開始までの間に相談をする方も多い。

(5) 世代別相談件数(累計)

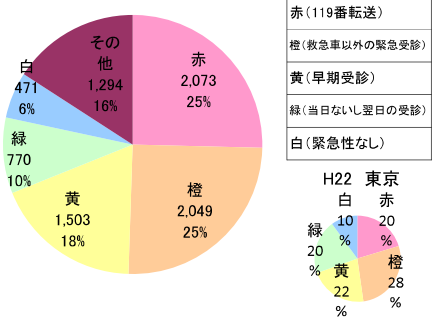


(6) 世代別相談割合(累計)



▼乳幼児（0～5歳）、高齢者が全体の46%

2 プロトコル判定結果(累計)



▼全体の25%が119番に転送、75%はそれ以外の対応

▼先行都市に比べ赤判定の比率が多い。

▼その他は、赤判定となるも119番を辞退した場合であり、内訳は右表のとおりで、その多くは受診。

3 医療相談内容(プロトコルの利用状況)

	件数	割合
1 小児 発熱	449	2.5
2 腹痛	310	1.7
3 めまい・ふらつき	243	1.3
4 頭痛	228	1.3
5 呼吸困難	222	1.2
その他	4,225	23
合計	5,677	31

(その他の内訳)

自己受診	675
家族等と相談後	145
身の回りの準備後	104
かかりつけ医と相談後	98
様子見	272

4 奏功事例状況等 60例(抜粋)(H26.3.31まで)

上段：安心センターへの市民相談内容	傷病名	程度
下段：救急要請（救急出動）の理由		
1 嘔気、冷汗、胸苦、耳の下の痛み 60代男性、胸の重苦しさ、嘔気、両耳の痛み	急性心筋梗塞	重症
2 頭痛、嘔気 70代男性、頭痛、嘔気	くも膜下出血	重症
3 4時間前からの差し込むような胃痛。複数回の嘔吐。冷汗著明。 70代男性、7時頃から急に胃周辺が痛くなり、10回以上嘔吐した	急性膵炎	重症
4 今朝から眩暈があり、転倒。胸を打ち病院受診。帰宅するも今も眩暈で立てない。 80代女性、めまいと冷汗。	外傷性脾損傷	重症
5 ストープを使用し臭いでくらくらする 警戒出動。60代女性、石油ストーブを使用した際、室内に異臭。眩暈・口腔内の痺れ。	救急車、消防車が出動	